

ボート全日本選手権かじ付きフォア

畠山勇生さん(山田出身)が優勝に貢献



優勝メダルを手に喜びの畠山勇生さん

ボート競技の第八十四回全日本選手権大会・かじ付きフォアで、本町豊間根出身の畠山勇生さん(日本大学一年)が、優勝を飾りました。大会は六月八日から埼玉県戸田市で行われ、かじ付きフォアには全国から大学や実業団など二十四チームが参加。日大からはメンバー五人中四人が畠山さんを含む一年生で出場しました。日大チームは予選、準決勝を一位で通過し、

決勝へ進出。序盤から先頭に飛び出し、中盤で二位以下を一気に突き放すと、そのままリードを保ち見事トップでゴールしました。

畠山さんは、山田高校在学中に国体ボート競技で四位に入賞するなど大活躍。その実力を存分に発揮し、優勝に大きく貢献しました。「まだ入学して間もないですし、高校時代にやってきたダブルスカルと現在のフォアでは漕ぎ方が違うので、慣れるのに苦労しました。これから色々な大会での優勝を目指して頑張りたいです。いずれは世界を相手にレースをしてみたいですね」と少し照れながら、将来の目標を語ってくれました。

全国選抜ゲートボール大会 「岩手はまぎく」チームの 準優勝に本町2選手が活躍



初の準優勝に笑顔の佐々木和子さん(左)と木村敏子さん

第二十一回全国選抜ゲートボール大会のミドルレディースクラス(十八歳以上六十五歳未満の女子)で、本町二人と宮古市五人でチームを編成する「岩手はまぎく」が準優勝に輝きました。

大会は五月二十七日から山口県山口市で行われ、同クラスには都道府県の予選を勝ち抜いてきた四十八チームが参加。「岩手はまぎく」のメンバーとして本町からは豊間根の佐々木和子さん(六三)と木村敏子さん(六三)が出場しました。予選を三戦全勝した「岩手はまぎく」は決勝トーナメントを順調に勝ち進み決勝へ進出。決勝で肥後レディース(熊本)に13対18で惜しくも敗れましたが、初の上位入賞を果たしました。

本町の二人は「これまで全国選抜大会では、決勝トーナメントの一回戦で敗退していただけにとてもうれしい。これからも上位を目指して頑張りたい」と笑顔で話していました。

叙位

故 毘正助さんに従六位



故 毘 正 助さん

元毘医院の院長で勲五等双光旭日章を受けている故毘正助さん(中央町・九三)に、叙位として従六位が贈られました。

毘さんは、昭和十三年に当時無医地区に等しかった本町に開業。翌年には町医と学校医の委嘱を受け、以来五十五年間にわたり、町民の健康保持に努めてこられました。

また、学校保健会会長や山田町総健康づくり推進運動協議会会長、山田町警防団第二分団長などを務め、各分野で活躍。昭和三十四年からは町教育委員会教育委員を二十二年間にわたって務め、「山田町教育基本計画」の策定に参画するなど、本町の教育面にも尽力されました。

毘さんは、五月一日に亡くなられました。ここに生前の功績をたたえ、ご冥福をお祈り致します。